

＜4時から夢塾＞ ―考え議論する道徳授業―

第11回の「4時から夢塾」を10月9日（水）に、三条市教育委員会教育センターの捧信之センター長から、四つの授業実践をもとにして『考え、議論する道徳教育～一人一人の価値観を育む授業へ』のご指導を頂いた。



1 学習指導要領解説「特別な教科 道徳編」より

・考え、議論する道徳授業とは、「価値を教える」から「一人一人の価値観を育む」ことであり、すなわち「主体的・対話的で深い学び」のある道徳授業を行うことである。

2 道徳的価値の理解・・・これには「価値理解」「人間理解」「他者理解」の三つがある。

3 道徳性を養う・・・道徳性は①道徳的な判断力 ②道徳的心情 ③道徳的実践意欲と態度がある。

4 道徳科の指導方法

・「登場人物への自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」の三つの学習は、ばらばらではなく、絡み合っていて行われて「質の高い多様な指導方法」となる。

5 主体的・対話的で深い学び

・子どもの問題意識を動かす授業にすること。そのために、教師は子どもが学習問題を生み出せるように、最大限の努力をすること。そして、子どもと共に学習問題を生み出せるように努めること。



6 道徳科の評価

・学習状況や、道徳性に係わる成長の評価をすること。道徳性が養われたか否かは、容易に判断はできない。「～な心情が育った 態度が育った ～な価値が理解できた」等は、言えないこと。

・評価とは、子ども理解を深める営みであり、認め、励ます個人内評価をすること。

7 主体的・対話的で深い学びを具現する最も基板となるもの

・教師と子ども、子どもと子ども同士の信頼関係であり、温かいまなざしの中で授業が深みを増す。

8 豊かで多様な学びに向けて・・・道徳科は価値ある心の体験をする時間

・道徳科は自己の内面を見つめ、迷い悩む時間→漢方薬のようにじわじわきいてくる風土をつくる。

9 まとめ・・・子ども自身が道徳の授業って面白いと思うからこそ、価値観は育まれる。

・考え、議論する道徳への質的転換を図ることは、「思慮深い人間の育成」をめざすものである。

＜参加者の声＞

・実践例を多く示して頂き、子どもたちが深く考えるための発問の仕方など分かり易かった。

・教師と子ども、子ども同士の信頼関係が大切であるということ、改めて強く感じた。

・子どもたちを、どう教材に引き込むかと悩むことが多かったが、提示物がとても参考になった。

・子どもの思いを大切にすることが大事だと再認識をした。実践に基づいたお話が魅力的だった。

・評価について、学習状況や道徳性に係わる成長の様子を見取ることが、良いことと理解した。

・自己内対話ができるよう、子どもたちが迷い悩める課題設定、そして展開を考えていきたい。

